

教員名	荒木 美奈子 (ARAKI Minako)
所 属	文教育学部グローバル文化学環
学 位	Ph.D. (開発研究)
職 名	助教授
URL / E-mail	araki.minako@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

開発 / アフリカ、タンザニア / 住民組織

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・ ARAKI,M., "Local Notions of Participation and Diversification of Group Activities in Southern Tanzania", in African Study Monographs, Suppl.36: 59-70, March 2007
- ・ 荒木美奈子、2006
「タンザニア南西部マテンゴ高地における「地域開発」プロジェクトと住民のインターアクションに注目して」、『開発学研究』 Vol.17 No.1. pp.15-20.

◆研究内容

「開発」プロジェクトと住民とのインターアクションに注目し、研究を行っている。JICA 専門家として携わったタンザニア・ソコイネ農業大学地域開発センター(SCSRD)プロジェクトの対象地であったタンザニア南西部ムビンガ県において、2006年8月に引き続きフィールド調査を行った。プロジェクトがその対象地域より広域の地域やプロジェクトのタイムスパンより長い「時間軸」にどのような波紋を投げかけ、内部者と外部者のインターアクションは、地域の文脈のなかでどのように消化されているのか、そして、どのように地域が再構築されていくのかを考察してきた。さらに、グローバル化の影響を大きく受けるタンザニアにおいて、人びとがどのように対応しているかについても考察を深めている。

◆教育内容

1. 学部：「国際協力学」では、国際協力の基本的な概念や仕組みを概説した。「地域開発論」では、主にタンザニアでの地域開発の事例を考察しながら、多様な地域での地域固有の発展のあり方や協力のあり方を検討した。「国際協力方法論」では、参加型の方法論などを演習を通して批判的に学んでいくことを目的とした。「グローバル文化学総論1」では、グローバル化する社会における国際協力の課題と可能性について3コマ講義した。「国際開発論」では、国際協力機構(JICA)の職員や専門家を講師としてお招きし、様々なトピックについてその課題や具体的事例について講義してもらった。実習科目としては、「国際協力演習1」でタイ実習の事前勉強・準備を行い、「国際協力演習2」では2007年3月にタイにて実習を行った。
2. 大学院：「国際協力論」では、C.Moser, Gender Planning and Development をテキストとし、輪読、討論を行った。

◆共同研究例

「地域研究を基盤としたアフリカ型農村開発に関する総合的研究」 （科研費補助金による共同研究）

◆将来の研究計画・研究の展望

1999 年よりタンザニアにて、JICA プロジェクトと科研を通して開発実践と研究に携わってきた。2007 年度が科研の最終年であることもあり、これまでの経験を総括しつつ、政策や実践へのフィードバックも行っていきたいと考えている。

◆受験生等へのメッセージ

「開発」実践と研究の双方からアフリカ（特にザンビア、タンザニア）に関わってきました。実践と研究をつなぐ視点やアフリカのポジティブな側面とネガティブな側面の双方を、伝えていきたいと考えています。スライドやビデオを使用したり、第一線で活躍するゲスト講師をお呼びすることにより、国際協力・開発の現場をより身近なものと感じ、かつ批判的な視点を持ちながら学んでほしいと願っています。さらに、私たちの日々の生活がいかに関他の地域につながっているかを、「食」「水」「木」「エビ」など身近なものから考えながら、グローバル化する社会のなかで市民による国際協力がどのような形でありえるのかをともに考えていきたいと思っています。